

徳恩寺 横浜市青葉区恩田町 1892

建武二年（1355）、等海律師（?～1373）の手によって、高野山真言宗摩尼山延壽院徳恩寺として中興開山されました。江戸中期には中本寺として近隣の真言宗寺院十三ヶ寺を統べる法談所でもありました。元禄十四年（1701）、柳沢吉保の一族、恩田郷を治めていた柳沢信尹公より、奥方の念持佛であった弁財天一躰及び弁天社を寄進建立されるなど、菩提寺への帰依信仰に篤く多大な貢献をされ、さらに信尹公の上申により、慶安二年（1649）には寺領七石の朱印地を賜りました。（朱印状の写しが現存）

本尊虚空蔵菩薩は、室町期の作と伝えられ、横浜虚空蔵として地域の人々に親しまれています。寺宝の金剛薩埵面軸は、当山第十九世開演僧正が、元禄年中に高野山より請来されたお大師さま直筆と伝わります。創建年代等は不詳ながら、江戸幕府より観音堂領として寺領9石5斗の御朱印状を慶安2年（1649）以前より受領していたといえます。また、庭には江戸城明け渡しの折、場内の整備の労務の褒章として春日燈籠庭石を受領した。

（以上 境内の案内版から抜粋）



道路から急な階段と山門



本堂がひっそりと



江戸城春日燈籠の庭石



多くの銘木・古木に指定されている木々



本堂の隣に弁財天



お寺の隣に歴史ある弁財天が